

令和2年度事業報告

令和2年12月に京都清水寺で発表されたこの年の漢字は「密」でした。この年、世界中に感染拡大したコロナウィルス禍を象徴する文字ですが、年が変わっても波のように増減を繰り返す感染数や、相次ぐ変異種の発生など、まったく予断を許さない状況です。私たちシルバー人材センターの事業実績にも、人の動きが大きく制限された感染拡大防止対策の影響が色濃く出ており、総合文化施設関連や独自事業の実績は大きく減少しました。全体の状況では、シルバー人材センターの受注件数は976件と前年に引き続き減少傾向ではありますが、受託事業そのものは大きな減少はなく、シルバー人材センターの役割が地域にとって大きなものであることを示しています。

過疎化に悩む地域にあつて、会員数は令和3年3月末現在で154人と前年比4人増となりました。2年続けての増となりましたが、年度替わりに退会者が多くなる傾向が続いています。

このような状況下にあつて、契約金額は前年度より約5,075千円減少の約39,036千円となりました。約11.5%の大きな減となっていますが、これは新型コロナウイルスの感染防止対策により2度にわたって行われた緊急事態宣言と、移動自粛措置が長期間取られたことにより、総合文化施設の利用客が激減し、この利用客対応に伴う配分金収入の減少と、とうえい温泉利用客の減少による独自事業収入の減少によるところが大きくなっています。

当法人の運営については、配分金に伴う事務費収入と国並びに町の補助金を基盤として事業を展開していますが、独自財源である事務費収入が落ち込む中、シルバー事業に対しましては厚いご理解のもと補助金の交付をいただきました。

また、会員の健康と安全を守るため、機会を通じ安全就業意識の向上を目指すとともに、安全適正就業委員会の開催、委員及び業務担当による安全巡回パトロールの実施などを行いましたが、令和2年度は事故が多発しました。これを受け安全適正就業委員会で対応を協議し、全会員に向け注意喚起と特に飛び石事故についての解説チラシを配布しました。今後はこの年度を糧として、より一層の安全意識の徹底が必要です。

シルバー人材センター事業は、地域の高齢者に就業機会の確保・提供を通じて、地域社会の活性化に寄与していただくことを目的としています。この崇高な理念とは裏腹に、私たちを取り巻く社会情勢は、引き続き過疎・少子高齢化に加えコロナ禍という未知の事態に見舞われています。このような情勢下に適正な運営を進めていくために中長期的な指針が必要と考え、「中期計画」を策定しました。

今後は基本理念に基づき、中期計画の内容に沿いながら年次計画を策定し、会員の相互協力のもと、会員・役員一丸となって事業の推進に努力してまいります。

令和2年度における事業実績

1 会員の拡大と就業機会の開拓、就業率の向上

会員の増加を目指し、会員募集の啓発チラシ入りティッシュを作成し、行政機関や金融機関など人目につく場所に配置をしました。また、会員の皆さんによる声掛けや役員・事務局の働きかけにより、令和3年3月末で対前年比4名増の154名の会員数を確保することができました。年度替わりに退会者が多くなる傾向が続いていますので、特に高年齢者の退会を抑止できる策が必要となっています。就業機会の確保のために、民間や地方公共団体への訪問を行いました。今後も就業機会の開拓に努めていきます。

2 独自事業を推進

五平餅・喫茶・そば打ち・農産物販売を継続しました。観光と密接な関係を持つ事業であることからコロナ禍の影響を大きく受け、五平餅事業、そば打ち事業とも発注のキャンセルが多く発生したほか、購入客も減少しました。五平餅事業ではこの対策のための就業者の話し合いの場を持ち、近隣事業所への配達の強化を行いました。

町からコロナ対策協力金を受け、五平餅PRチラシを作製したほか、五平餅・そば事業に必要な物品の整備を行いました。

3 生活・家事援助サービスを推進

高齢世帯や病気療養中の方などの日常生活での困りごとに対し、シルバー人材センターの会員が家事や身の回りなどを手助けするものですが、実績としてはペンキ塗りなど家屋の維持作業や家の周りの除草や農作業の補助、粗大ごみの片付けなどの業務が多くなっています。

4 会員の就業意識・技能の習得

会員の持てる技術の向上とより高い技術習得を図るために、専門の講師を招いて茶の整枝講習会・剪定講習会を開催し、技術習得に努めました。屋内清掃講習会も企画しましたが新型コロナ感染拡大と時期が重なったため中止となりました。

5 高齢者活用現役世代雇用サポート事業の推進

人手不足分野や現役世代を支える分野での就業促進のため、請負や委任になじまない就労を派遣事業への切り替えを進め、さらに就業を拡大するための取り組みを各種団体に働きかけました。

6 労働者派遣事業・職業紹介事業への取り組み

労働者派遣事業の取り組みを行いましたが、実績はありませんでした。派遣元事業主である愛知県シルバー人材センター連合会と連携し、適切な制度運用のもと派遣事業を運営しています。

職業紹介事業につきましては、その実施事務所として責任者を配置し、臨時的かつ短期的又は軽易な業務にかかるもので請負等以外の業務を対象として対応して

きましたが、本年度の該当はありませんでした。

7 安全適正就業・健康管理

安全就業と健康管理を会員に周知し、安全・適正就業パトロールを実施しましたが、今年度は2件の傷害事案と2件の損害賠償事案が発生しました。これを受け安全・適正就業委員会を開催し、会員に向けて安全意識の高揚と刈払機による飛び石事故の具体例を示したチラシを配布しました。今後はこの年度を糧に、さらなる安全意識の向上が必要です。

8 ボランティア活動の実施

地区班ごとに年4回街頭に立ち交通安全週間に合わせて啓発を行い、述べ283人の会員の参加を見ました。

9 指定管理事業

引き続き町から総合社会教育文化施設の指定を受けて、適切な管理を行いました。この年度は新型コロナウイルス禍の影響により利用者が激減しました。また、様々な場面でこの感染拡大防止措置を講じるなど、新たな対応が必要となりました。

10 組織の強化

行政機関や企業、諸団体との連携・協力を努めるとともに、愛知県シルバー人材センター連合会とも連絡を密にしながら、組織の強化に努めました。

混沌とした社会情勢が続く中、シルバー人材センターが進むべき道の中長期的に示した「中期計画」を策定し、向こう5年間の道しるべとしました。

事務局体制の変革として、指導員が交代したほか、事務局員の交代に備え新たに臨時職員1名を採用しました。